

早稲田大学 国際教養学部 世界史 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	2015年までの大問4の構成が昨年2016年に大問5となり2017年・2018年と踏襲された。設問数は2015年の40問から2016年43問、2017年48問と増加傾向が続いたが今年は46問とやや減少した。一旦完全消滅し2016年に3問と復活した記述式は、2017年は5問と増加し、今年は3問に減少した。2013年に登場した英文の史料問題は、2014年は極端に易化し、2015年は難化、2016年は再び大幅に易化、2017年もやさしかった。しかし、今年は明らかに難化した。地図問題は出題されなかったが相変わらず正誤判定のポイントに細かいものが目立った、全体としてやや難化した。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	ローマ教皇庁の歴史	問1:ウの背教者ユリアヌスの事績は「キリスト教徒からローマ市民権」をはく奪が誤り。ユリアヌスはキリスト教徒に対する優遇を廃止、つまり異教徒と同等の扱いにした。問2:エのテオドシウスと問3の五本山は基礎レベル。受験世界史全般に言えることだが、九か国条約・唐宋八大家・8カ国連合軍・六行五信・五経・四書・四大奇書など事項が並列になっているものの異同は定番である。問4:イのピピンの寄進は「ナポリ」ではなく「ラヴェンナ」「ウルビーノ」。ウは「自らの手で」が誤り。カールは800年のクリスマスに教皇レオ3世により戴冠。エのカール＝マルテルは宮宰にとどまった。問5:エの托鉢修道会(一般的にはフランチェスコ会とドミニコ会)の成立は13世紀初めである。問6:13世紀末に教皇と争った仏王といえはフィリップ4世しかない。アナーニ事件(1303)の連想からも解答できるが、1303年(14世紀初頭)からぎりぎり別の仏王ではないかという危惧を抱いた場合でも消去法で確信を得られる。問7:アは「ガロンヌ」ではなく「ローヌ」が正しい。ガロンヌ川は大西洋にそそぐ河川で中流域にはトゥールーズ(アルビジョワ派の拠点)、河口部にはボルドー(ギュイエンヌ地方の中心で百年戦争の係争地)がある。教科書の百年戦争関係の地図をおさえれば迷うことはない。欧州の河川は昨年の地図問題に引き続き連年の出題となった。問8:イのピサは教会大分裂(1378～1417)の後半の教皇鼎立時代の教皇庁の一つ。消去法でも十分対処可能である。問9:ウのウィクリフが活動したのは14世紀後半。問10:イの「ブルネレスキ」は「ブラマンテ」が正しい。ブルネレスキとブラマンテの異同は受験世界史の定番。ウの「ロマネスク」は「ルネサンス」が正しい。エのサンタ＝マリア大聖堂はサン＝ピエトロ大聖堂大改築以前の建物。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
II	中国古代史の諸相・唐の建国と展開	問1：ウの墨子(春秋時代末期)は孟子(戦国時代)以前の人物である。諸子百家も含め、文化関係・思想関係の人物と時代との関係はしっかりおさえておきたい。問2：アの半両銭は始皇帝に始まり前漢武帝の五銖銭鑄造まで用いられている。問3：ウの占田・課田法は西晋の土地制度。問4：アの衛氏朝鮮の成立は前漢初期の前190年頃とされる。問5：イの蔡倫は106年に後漢の和帝に紙を献上した人物。中国文化史では頻出事項。問6：エの科挙は、「郷挙里選」ではなく「九品中正」。問7：イの「門下省」は「中書省」。門下省は中書省が起草した詔勅を審査し、場合によっては差し戻す(封駁)という権限を持っていた。そのため門閥貴族勢力の拠り所となった。問9：ウのタラス河畔の戦い(751)は安史の乱(755～63)以前の出来事。問10：イの「詩仙」は李白、ウは白居易、エは韓愈にあたる。	標準 (一部易)
III	ティムールとその後継者	ティムールについては連年の出題。問1：エの『集史』の作者は「イブン＝ハルドゥーン」ではなく「ラシード＝アッディーン」。イブン＝ハルドゥーンは『世界史序説』の著者。問2：イの首都サライは「アラル海西岸」ではなく「ヴォルガ川下流域」。ウのウマル＝ハイヤームはセルジューク朝時代の詩人(『ルバイヤート』)・天文学者(「ジャラーイー暦」)。エは明らかな誤り。問3：ティムールの侵入を受けたのはトゥグルク朝(1320～1414)。デリー＝スルタン朝(1206～1526)の3番目の王朝。問4：イのクリム＝ハン国(15世紀前半～1783)はキプチャク＝ハン国の継承国家の一つだが、メッカ管理権とは無関係。問5：エのバヤジット1世(位1389～1402)はアンカラの戦い(1402)の敗者であると同時にニコポリスの戦い(1396)の勝者でもある。問6の明の皇帝とは永楽帝(位1402～94)。ウの鄭和は永楽帝を想起できれば即答できる。問7：イのサマルカンドは基本事項。問8：アのアイユーブ朝(1169～1250)の建国は12世紀。ウのカイロ会談は米・英・中の首脳会談。エのアラブ連合共和国の成立は1958年。アラブ連合については昨年も出題されている。問9：アのバーブルは易しい。問10：エの「ポンディシエリ」は仏の拠点。英なら「マドラス」。	標準 (一部易)
IV	現代文明の諸相とグローバル化	問1：エのキューバ危機(1962)の際のソ連は「ブレジネフ」ではなく「フルシチョフ」。問2：ウの包括的核実験停止条約(CTBT)(1996)には中国は署名はしたが批准はしていない(米・イスラエル・イランも)。パキスタンと北朝鮮は署名もしていない。核軍縮については昨年に次いで連続の出題となった。問3：エのバルト三国は独立国家共同体に参加していない。問4：ウの1992年の選挙で大統領となったのは金泳三(任1993～98)。金大中(任1998～2003)はその次である。問5：ウのNAFTA参加国は米・カナダにメキシコが加わる3か国。問6：GATTは基礎事項。	標準 (一部難)

番号	出題内容	コメント	難易度
IV		<p>この種の国際条約や国際機関の名称は略称と正式名称と双方向でおさえておきたい。問7の酸性雨の影響は欧州の森林や建造物への被害。アフリカの砂漠化(とくに「サヘル」と呼ばれる砂漠周縁)の主因は過放牧や焼き畑の拡大である。問8:エの環境と開発に関する国連会議(「地球サミット」)で出されたのは法的拘束力のない「森林原則声明」で「条約」ではない。これは細かすぎる内容なのでなんとか消去法で対処したい。問9:アのディーゼルエンジン自動車は1924年にドイツのメーカーが実用化した。ダイムラーが作ったのはガソリンエンジン自動車で1880年代のことである。</p>	
V	<p>難民条約関係史 (英文史料問題)</p>	<p>昨年の英文史料問題「カイロ宣言と朝鮮戦争時の安保理決議」に続いて戦後の史料が出された。この史料を既知のものとして臨める受験生はほとんどいなかったと思われる。そこで前後の文章から類推して答を探し出さねばならないわけだが、キーワードは必ず見つかる。問1:先ず空欄の前のUnited Nationsに注目し、さらに1948年12月から連想すれば人権宣言を導きだせる。問2:誤文であるアの内容は荒唐無稽なもの。問3は史料中の「1926年5月12日のとりきめ」に関する設問。第一次大戦中にオスマン帝国がアルメニア人を強制移住させ大量虐殺事件を起こしたことを知っていれば簡単だが、高校世界史レベルではなかなか出てこない事項でもある。トルコのEU加盟をめぐって現代でアルメニア人虐殺事件は尾を引いている。ただ問題はロシア人かアルメニア人かという二択すらスタートし、アルメニアに絞ればあとは二択である。消去法でも対応できる。問4:ウの日独伊三国防共協定は1937年11月。日独防共協定(1936年11月)にイタリアが加わることで成立した。問5:イはUNHCRがわかれば正解できる。Office of the United Nations High Commissioner for Refugeesが正式名称で日本語では「国連難民高等弁務官事務所」と書かれる。セットになっているUNRWAはUnited Nations Relief and Works Agency for Palestineの略称で「国連パレスチナ難民救済事業団」である。問6:「国籍」(英文ではnationality)は難しい。問7:ア「難民の追放及び送還の禁止」も難しいが、母国を逃れてきた難民にとって最大の脅威は何であるかと考えれば正解が見える。</p>	<p>やや難</p>

[総合コメント]

一昨年復活した記述式問題は、基礎的な問題ばかりだったが、昨年は問題数が増加したこともあって「カルパティア山脈」のような答えにくい設問も現れた。今年は問題数が減った3問のうち2問は英文史料問題中の設問だった。正誤問題には一見するとかなり難しいものが見られるが、文章を丹念にチェックすれば消去法での対処が可能なものも多く、あわてずに落ち着いて対処できれば確実に得点を積むことができる。また、英文の史料問題も、2013年のジョセフ＝チェンバレンの演説文という受験生が既知である可能性は限りなくゼロに近い文章から、2014年は誰でも知っている米独立宣言へと劇的に変化し、2015年はまた一転して一般的ではない文章(海軍大臣時代のチャーチルの発言と1980年1月のカーター米大統領の年頭教書)にまいもどった。2016年は近世東南アジア史についての書籍からの抜粋で、そのほとんどは英語の本文を通読する必要なく解答できるものだった。昨年の「ポツダム宣言」と「朝鮮戦争時の安保理決議」は全体を読む必要があった。今年はキーワードからの類推ができるか否かといった感があり、こつこつとした受験勉強の積み重ねで対処できる筋合いではなかった。ただ、難民問題は極めて時事的な問題でもある。普段から国際情勢に敏感で、とくに人権の観点から諸事件を考えていれば意外に簡単だったかもしれない。国連・核軍縮・西アジア現代史は連年出題されているので要注意分野として重点的に学習しておく必要がある。昨年同様現代史の比重が大きかった。来年もその傾向が続くという前提にたち、現代史の展開を細かいところまで確認すべきである。